

池田湖とイッシー伝説

指宿にあるカルデラ湖、池田湖は九州最大の湖です。周囲 15 キロメートル、直径 4 キロメートルの池田湖は、最大深度 233 メートルの日本で 4 番目に深い湖でもあります。

池田湖は、縄文時代（紀元前 10,000～300 年）だった 5,500～5,700 年前、火山活動によって形成されました。この火山活動中、合計 5 立方キロメートルの軽石と火山灰を含む火山物質が噴出しました。その結果、地盤が落ち込んでカルデラが形成され、年月とともにそのくぼみに雨水が溜まって池田湖になりました。

しかし、池田湖の火山活動はまだ終わっていません。地下には活火山があり、その大きさは湖底からの高さ 150 メートル、直径は 1 キロメートルに及びます。

湖には、その大きさから 1969 年に指宿市の天然記念物に指定された大きなウナギも生息しています。このウナギは最大で長さ 1.8 メートル、胴回りは 50 センチメートルに達します。

地元の伝説によると、湖に住んでいる巨大な生き物はウナギだけではなくありません。スコットランドの有名なネス湖の怪獣と同様、1978 年に目撃されて以来、この怪獣をめぐるその正体について様々な憶測がなされています。スコットランドのネッシーに名前が似ているこのイッシーは、絶滅を免れた恐竜なのでしょうか。それとも、ただの特に大きなウナギや魚に過ぎないのでしょうか。

湖の表面を注意深く眺めてみてください。イッシーが見つからなかったとしても、巨大なウナギの姿を垣間見られるかもしれません。